

主体性の芽

下は、バス通の生徒たちがその日のバス乗車の意思表示をするホワイトボードの写真です。今朝の七時過ぎに撮影しました。バス通の生徒はもちろんのこと、徒歩や自転車で通学する者を含め、多くの生徒がこの前を通って行ったはずです。その中で、ホワイトボード



に何かを発見した生徒はどれくらいいるでしょうか。結局、ここに「主体性の芽」があると私は思います。ホワイトボードを利用してしている生徒かそうでないかは関係なく、「おや?」「だれがやっているんだ?」と思えることから「主体性」は成長します。そう思えなかつたら、恐らく気付きませず、スルーして終わり、ということになります。ましてや、「主体性」が行動に出ることは、夢のまた夢だと言えますね。

気付くべきことは、小さな小さな事実です。しかし、それに気付くか気付かないかは、大きな大きな差だと私は思います。生徒玄関の扉が開く前に撮影したということは、バスがまだ到着していないということ。つまり、バス通の生徒が帰りのバスに乗るかどうかの意思表示をする前の状態です。帰りもバスを利用する生徒たちは、このホワイトボードの自分の名札を上段に張り替えます。

その名札は学年ごと（色ごと）に分けられ、自分の名札が見つけられやすいように整然と並んでいます。そのおかげで、バスから降りた生徒たちは、すぐさま自分の名札を見つけられ、すぐ手に取ることができるようになっています。

帰りのバスに乗る前に、名札を再び下の段に張り替えて乗車確認をするのですが、張り替えた生徒たちは、この写真のように学年ごとに分け、整然と並べていますか。そうではないですよ。バスに乗って家に帰り、翌朝登校すると、名札がこのように学年ごとに整然と並んだ状態になっているのです。

言っておきますが、私たち職員がやっているものではありませんよ。皆さんが下校してからは、全員が真っ先に消毒作業に取り組みます。多くの名札を整然と並べ替える余裕はありません。となると、いったいだれがやっているのでしょうか。不思議に思いませんか。バス通のことだから、バスを利用してはいるだけかだろうか。それとも……。やっている人のおかげで、素敵な環境が生まれ、仲間の役に立っていることは確かですね。あなたには「主体性の芽」が育っていますか。